

神奈川県立小田原養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和2年度神奈川県立小田原養護学校第2回運営協議会	
開催日時	令和2年10月15日(木) 10:00~11:45	
開催場所	神奈川県立小田原養護学校 応接室	
出席者	委員6名 事務局6名	
次回開催予定日	令和3年2月25日(木) 10:00~11:45	
問合せ先	小田原養護学校 副校長 鈴木 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>○学校長挨拶</p> <p>○会長及び副会長の選出 会長は鈴木正一委員、副会長は川端慎委員</p> <p>○小田原養護学校コミュニティスクールについて</p> <p>○学校目標について 校長より 地域、各事業所等各々の立場の情報を提供していただき、会長を中心にそれらをもとに議論していただきたい。そして県に意見等を挙げていくことになる。</p> <p>○教育活動の視察及び校内見学 学習発表会：中B「運動、美術、音楽の発表」(於 体育室)</p> <p>○学校の状況について ①新型コロナウイルス感染予防対応と教育活動について ②湯河原・真鶴方面分教室(仮称)について</p> <p>○意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒一人ひとりが主役となれるよう、先生方が努めており、小田原養護学校の子どもの学びのための取り組みがよく分かった。 ・学校の普段の取り組みが成果として見られた。 ・湯河原・真鶴方面分教室の今後について、そちらに行く児童生徒は住まいによって決まるのか。 <p>⇒ 小中学部は原則湯河原・真鶴方面分教室に行くことになるが、高等部においては、分教室の指定地域に居住する者は移動できることとしている。令和3年度においては本校か分教室を選択することができる。</p>	

- ・湯河原・真鶴分教室に年度の途中で移るというのは、6月まで本校にいて、そこから移動するといくことか。
 - ⇒ 6月というのはいま決まっていなくて、そのとおりである。ただし、移動の時期は検討中である。移動するまでは、スクールバスは本校までの登下校のために運行することとなり、移動してからは、分教室での運用となる。
- ・教職員については4月の時期は、分教室に異動する人数も含めて本校にいるのか。
 - ⇒ 湯河原・真鶴分教室の教職員の配置については、小田原養護学校として配当された人数から、大井分教室と湯河原・真鶴方面分教室に適切に配置していくことになる。加配については不明である。
- ・学習発表会を見せてもらい、先生方は子どものことをよく理解し、適切な指導をしていた。また、保護者と一体感のあるものであり、子どもたちの成長が見られ、先生方が子どもたちに合わせて演技をされ、楽しい雰囲気を出していた。
- ・障害のある子どもたちの支援の手立て等がなかなか地域に広がらないことが課題である。小田原養護学校は過大規模化し、地域の小中学校での受け皿が大きくなっていくことが見られない。

小田原市ではハーモニーが立ち上げられたが、まだ機能しているとは言えず、一層の連携が必要となる。また、小中学校の教員の質の向上がより必要である。

療育と教育は異なるという教員がいる現状をなんとかしたい。

 - ⇒ 本校においても相談支援チームは案件を何百件も対応している。本校だけ頑張っても浸透しないのが実情である。本当に広いチームが必要であり、いろいろな情報がほしい。
- ・湯河原・真鶴方面分教室ができることはよいことである。大井分教室が開設された時も、本校に人が入れない状況であった。この地域は神奈川県においても異質なところなので、分教室ができると子どもたちも助かることである。

また、この地域は水害が心配される場所である。子どもが学校にいる時間帯において、分教室を作って子どもたちを分散させることは必要である。

⇒ 県においても、あり方検討会議において、地域に根差した支援教育をテーマに話題には上がるが、予算にも限りがある。

- ・学習発表会においては、子どもたちが楽しく臨めるように先生方が準備していることに感謝している。
- ・この地域は確かに水害が怖い。台風の時、近所の用水路があふれ、そこで被災したアパートは今も修理している。肢体不自由のある子どもたちは、エレベーターが止まると2階に上がれなくなる。車いすを含めると80kgにもなることから、階段の昇降は大人4人がかりになってしまう。小田原養護学校においては、ぜひ、スロープを設置していただきたい。

⇒ 現状、子どもを抱えて上がるなり、下がるしかないが、人命を第一優先にする。

○会長挨拶

今年度は特殊な年度である。現在勤めている大学においては、前期はオンラインの授業となっていた。

この協議会は、県西地区の学びの充実や小田原養護学校を発展させるための応援団としてやっていくことになる。

○事務連絡

次回は令和3年2月25日(木)